

令和4年
菊川市こども議会

令和4年7月28日（木）

菊川市こども議員名簿

	小学校名	氏名	性別	題名	グループ
1	河城小学校	すずき ゆめ 鈴木 夢芽	女	菊川市の魅力を全国へ！！	A
2	小笠南小学校	さづか まさしげ 佐塚 正茂	男	「個性に合った教育」で教育のまち菊川へ変えよう	
3	内田小学校	よこやま さゆみ 横山 紗弓	女	安心して生活できるまち 菊川市	
4	加茂小学校	いしい はなか 石井 花和	女	選ばれるまち	
5	小笠東小学校	まつした あいら 松下 愛來	女	人と人がつながる菊川市へ	B
6	堀之内小学校	おきの しずか 沖野 静香	女	にぎやかでみりよく的な菊川	
7	牧之原小学校	むらまつ りく 村松 陸	男	子どもからお年寄りまで、楽に生活できるまちへ	
8	六郷小学校	しげた めぐみ 繁田 恵	女	菊川市を環境にいいまちへ	
9	横地小学校	いしかわ ねいろ 石川 音彩	女	一つの自然も無駄にしないまちへ	C
10	六郷小学校	しみず かれん 清水 夏蓮	女	菊川市を安心できるまちへ	
11	小笠北小学校	さわいり さく 澤入 さく	女	きくのん有効活用プロジェクト	
12	堀之内小学校	みずこし なつき 水越 夏樹	男	自然いっぱいの市	
13	河城小学校	たかやなぎ あおい 高柳 葵	女	菊川市を有名なまちに・・・	D
14	加茂小学校	まつもと みずほ 松本 瑞穂	女	魅力ある菊川市	
15	内田小学校	さ の いぶき 佐野 維吹	男	特産品たくさんのまち菊川	
16	小笠北小学校	すずき ゆな 鈴木 佑菜	女	親しみのある菊川へ	
17	堀之内小学校	おおた はな 太田 波那	女	住み続けたい未来の菊川	
18	六郷小学校	まつしま れん 松島 漣	男	菊川市を有名なまちにしよう！	

こども議長

グループ名	こども議長名	小学校名	備考
Aグループ	さづか まさしげ 佐塚 正茂	小笠南小学校	Bグループ発表時の進行を行う
Bグループ	おきの しずか 沖野 静香	堀之内小学校	Cグループ発表時の進行を行う
Cグループ	さわいり さく 澤入 さく	小笠北小学校	Dグループ発表時の進行を行う
Dグループ	さの いぶき 佐野 維吹	内田小学校	Aグループ発表時の進行を行う

菊川市の魅力を全国へ！！

河城小学校6年2組 鈴木 夢芽

私は菊川市を、菊川の有名なお茶である「深蒸し茶」の魅力を全国に広めることを通して、たくさんの方が訪れる観光のまちにしたいと考えました。私がおんなのような考えをもった理由は、2つあります。

一つ目は、菊川市の深蒸し茶は、とてもおいしいからです。私は小さい頃からこの菊川市のお茶を飲んでいて、生活には欠かせません。小さい子から、お年寄りまでみんながおいしく飲める菊川市のお茶はすごいと思います。とてもおいしいこの菊川のお茶をたくさんの方に知ってもらいたいと思いました。

二つ目は、お茶をキッカケに色々な人に、この街を訪れてほしいからです。菊川はこんなにおいしいお茶があるのに、あまり観光地として知られていないから活気がないと感じます。だからもっとお茶を活かした活動をし、お茶の良さにふれてもらうことで、たくさんの方に菊川市のことを知ってもらい、活気のあるまちにしていきたいと思います。

そのために、取り組みを4つ考えました。

一つ目は、お茶を活かしたイベントです。菊川駅などの人が集まる場所でお茶を紹介したり、飲んでもらったりします。菊川のお茶をあまり知らない人でも実際に飲んでみたり、見てみたりする事で、菊川のお茶を知ってもらえると思ったからです。

二つ目は、菊川市のお茶を活かしたお菓子をもっと開発することです。もっと沢山開発する事で、たくさんの方に食べてもらい、お茶のおいしさを分かってもらえると思ったからです。例えば作ってみるとしたら菊川のお茶を活かしたクッキーやプリンです。そのお菓子を沢山の人に食べてもらいます。お菓子を通してお茶のよさをたくさん知ってたくさん飲んでもらったり食べてもらったりできるといいなと思います。

三つ目は、お茶摘み体験です。お茶摘み体験を通して、生産者さんの気持ちや大変さを知ってもらい、お茶をもっと大切に思ってもらいたいと思います。お茶摘み体験は、全国の色々な人が参加できるように、応募キャンペーンを実施し、たくさんの方に集まってもらいたいと思います。お茶摘み体験では、お茶の摘み方を全く知らない人でも気軽に参加して楽しみながら体験してもらいたいと思います。

四つ目は、お茶の生産者さんのボランティアです。このボランティア活動を通してお茶を作る大変さを知ってもらったり、お茶の大切さを知ってもらったりしたいと考えています。また近年お茶農家さんが不足しているため、農家さんだけでは大変な作業が、たくさんの方のボランティアさんといっしょにすることで楽になり、農家さんの負担も減らすことができます。ボランティアを通してお茶農家さんとしての仕事に少しでも興味を持ってもらえたらお茶農家さんも嬉しいと思います。

これらの方法で、菊川市を菊川の有名なお茶を活かしたたくさんの方が訪れる街にしていきたいです。もっともっと菊川市をお茶の有名な街にしてこのまちがたくさんの方で賑わうようにしていきたいです。

「個性に合った教育」で教育のまち菊川へ変えよう

小笠南小学校 6年1組 佐塚 正茂

1 提案のきっかけ

菊川市の第二次総合計画で、近年「小学生の学力低下」が問題になっているということを知った。さらに、OECDが世界の15歳児童を対象に学力（学力達成度）に関して行なっているテストの結果からも日本はこのテストで読解力（文章などから読み取る力）は8位→14位→15位→8位→4位→8位→15位と少しずつ順位が下がってきていることが見て取れる。また、数学的リテラシー（日常で活かせる数学）では1位→6位→10位→9位→7位→5位→6位とこちらも順位が下がっている。さらに理科的リテラシー（日常で活かせる理科）では、2位→2位→6位→5位→4位→2位→5位と順位が下がってきている。

このようになった理由は一律教育を行なったためだと考える。なぜなら、一律教育は勉強が苦手な人は他の人に追いつけなくなり逆に勉強が得意で先に進みたい人は先に進むことがむずかしいからだ。

以上のことから私は次の2点を提案する。

2 提案

（1）一律教育をやめて個性に合った教育にする

個人の学力レベルに対応するためそれぞれの学力や個性に合った教育をすることを提案する。この教育方法では「個」を尊重することを目標に行いたい。

これは、一人一人の個性を尊重してその個性を更に伸ばしていきたいからだ。

具体的には次のような内容の教育をすることを考えている。

- ・勉強が苦手レベル、普通レベル、得意レベル、さらに上を目指すレベルというようにレベルごとに分ける。

- ・基本授業に加え自分で追加授業（自分が特に進めたい科目【基本授業でも可】）を選択出来るようにする。

個性に合った教育を取り入れることによって基本科目の学力アップに加えそれぞれの科目の進度からその人に合った科目を見つけることもできる。そして、勉強への意欲がアップし、自分から主体的に勉強に取り組む。そうすることによって、確かな学力が身につく（文部科学省より）⇒地方の高校への進学率が上がる⇒地方の大学への進学率が上がる⇒地方が活性化するというメリットがある。

一方、「地方から地元へ人が戻ってくることは保証できない」というデメリットがある。しかし、この教育法を長く続けていけば「子供の時のあの教え方はよかったな。」と思って帰ってくる人もいるかもしれないというメリットもある。このことから「個性に合った教育」をすることが大切だと考える。

（2）フィンランドの「補習教育の徹底」を真似る

勉強のレベルが高いと言われているフィンランドでも、勉強が苦手な「落ちこぼれ」がいる。この落ちこぼれをなくすためにフィンランドでは「補習教育の徹底」が行われている。この「補習教育の徹底」をすることで、勉強ができなくて将来困るということを減らしている。日本でも、この教育をすることでフィンランドと同じ効果を期待できる。しか

し、補習教育をされた生徒は「自分はダメなやつなんだ」と、のび太の様な考え方をしてしまうかもしれないというデメリットもある。だが、そこでしっかりと勉強すれば、勉強ができるようになるというメリットがある。このことから、「補習教育の徹底」をすることが大切だと考える。

3 まとめ

このように「個性に合った教育」や、「補習教育の徹底」を行うことによって、多くのメリットがある。しかし、「地方から地元へ戻ってくることは保証できない」というデメリットは、今後解決のために策を考える必要がある。

安心して生活できるまち 菊川市

内田小学校6年1組 横山 紗弓

私は菊川市の災害について調べました。菊川市は、川や山などがたくさんあり、自然に恵まれた地域です。そこが菊川市の魅力です。しかし、私の家はもともと田んぼで、石で埋めただけなので、トラックなどが通るだけで揺れてしまいます。だから、大きな地震が来たときのことを思うと不安に思います。また、私の家の後ろには川が流れています。大きな川に流れている水が危険水位まで来たとき、私の家の後ろの川から水が溢れて庭へ流れこんできたことがありました。このように菊川市は、自然豊かであるけれど自然災害の危険があります。川が氾濫する水害や、地震や、大雨で崖や山が崩れる土砂災害。そんな危険がある中、菊川市は、わたしたちが安心して暮らせるためにどのような取り組みをしているのか気になったので、調べました。

1つ目は、水害への取り組みです。大きな台風や、それによる水害に備えて、地域の消防団が土のうの作り方や、救助用ロープの縛り方を消防士に教わっていました。消防士が市民を守るために消防団と一緒にたくさん訓練をしていますすごいと思いました。

2つ目は、地震から住民を守る取り組みです。学校などの施設では、避難訓練をしています。また、広報菊川では、防災バッグの中身のことなどを載せて、どんなものがいいのか市民に呼びかけていました。その他、無料で自分の家の強度を調べてくれたり、耐震補強をしたい人に補助金を出したりするなどの取り組みもしているようです。

3つ目は、1つ目と2つ目、どちらも関わりますが、ハザードマップのことについてです。ハザードマップは、菊川市のホームページに載っています。

私は、今回調べてみて、イベントや避難訓練などへの積極的な参加、防災バッグを作るなどのことが自分を守るためにできることだと思いました。また、同じ地区の人と、危険な場所を確かめておくことも大切です。さらに、一人暮らしのお年寄りや小さい子がいる核家族がどこに住んでいるか、地域の様子を知るために普段から地域の方との交流をすることも大事だと思います。なぜなら、自分で、自分の身を守ることができるし、地域の人と協力して地域を守ることもできるからです。

自分なりの防災行動計画「マイ・タイムライン」を作るのも、同じ理由です。このことは広報菊川に載っていたので、ぜひ見てみてください。小学校でも、6年生を中心に登下校中の防災行動計画を作るといのはどうでしょうか。そして、各地区の防災行動計画を学校内、さらに菊川市の小学校間で発表し合う活動をしたらどうでしょうか。子どもたちだけでなく、その様子を見ている家族の防災意識も高まると思います。

災害はマイナスイメージが強く、防災のことで菊川市が有名になることは難しいかもしれません。でも、もし菊川市に大きな災害が起きて、無事だったら「災害に強い菊川市」と、有名になるでしょう。そうすれば菊川市に移住者が増えるかもしれません。だから、魅力的な菊川市の川や山などを大切にしつつ、住んでいる人たち、また、これから転居してくる人たちが安全に暮らせるようになると思います。

選ばれるまち

加茂小学校 6年1組 石井 花和

私は、菊川市の子育てをしやすく、住みやすいという魅力から『子育てをするお母さんたちや、20代～30代の住民が増えれば』まちの活性化につながって良いのではないかと考えました。

1つ目の提案は、『子どもがいる家族の住民を増やす』ためにできることです。子育てをするお母さんたちのためにさらに子育てしやすいまちとしてサポートすることで、子どもを産み育てやすくなり、子どもをもつ家族が増えるのではないかと思います。例えば「中学生以下の子どもは医療費・給食費完全無料」や、「1歳以下はおむつ配布」などです。実際に他のまちで成功例があります。そのまちは、子どもをもった家族から選ばれる住みたいまちになり、そのまちにはいつてくる税金が増えることでそのまちの貯金が増えるという話を聞いたので、まずは子育てをサポートすることが大事だと知って、菊川市でもこういうことがあれば良いなと思いました。

2つ目の提案は、『若者の住民を増やす』ことについてです。私は若者の住民を増やすために、SNSを活用して発信することがよいと考えました。TikTokやInstagramで菊川市で行っている活動や観光地を紹介したり、市民に住み心地についてインタビューしたものを投稿するのも良いと思います。または興味をもってもらえるような映えスポットやお茶以外の名物を作ったり、面白いと思ってもらえるような写真・動画を投稿するなどして菊川市の存在を知ってもらうことも住民を増やすことにつながると思います。さらに具体的にいうと、ご当地アイドルや茶娘などにさわやかについての豆知識や魅力を紹介してもらったり、たこまんについての歴史やお茶の紹介など、考えただけでも多くの紹介できることがあります。このようなたくさんの魅力をSNSでより広い範囲の若者や子育て世代の人たちなど、いろいろな人に見てもらえるように、SNSをうまく活用すればより住みたいと思う人が増えるのではないかと思います。

3つ目の提案は、若者対象ではないですが、家にこもりがちのお年寄りが多いので認知症予防もかねてお年寄りが外に出ている人々と触れ合う機会として、月に1度ほど小学生などと触れ合い交流をしたり、今もやっているところはありますが、グランドゴルフや体操教室など運動で体を動かしたりして、趣味やちょっとした楽しみができることでお年寄りも楽しく過ごせる住みやすいまちになると思います。

この3つの『子育てに力を入れる』・『SNSを活用して多くの人に情報を発信する』・『お年寄りにも趣味や楽しみをつくる』という提案から、まちの活性化には住んでいて楽しいと感じてもらったり、菊川の知られていない魅力を伝えることが大事だと考えました。菊川市がより元気で笑顔あふれるいいまちになったら良いなと思います。

人と人がつながる菊川市へ

小笠東小学校6年1組 松下 愛來

私は、菊川市が「人と人がつながるまち」になってほしいと願っています。そのためには、菊川市に総合的な運動施設が必要だと考えています。

私は、小笠南V S Cで毎週バレーボールをやっています。チームメイトと練習や試合をする楽しさを感じています。コーチには、バレーボールの技術を教わり、バレーボールが好きになりました。他のチームとの対戦では、負けることも多いのですが、友達やコーチと一緒に汗を流し、いろいろな話ができるバレーボールの場が大好きです。

新型コロナウイルス感染拡大によって、私たちも、バレーボールの練習や試合に大きな影響を受けました。菊川市の施設では、周りの人と一定の距離を開けながら練習することは難しいことでした。他の運動をしている人も運動の制限を受けたのではないかと思います。制限のある中でのバレーボールを経験したことで、友達やコーチと一緒にいる時間の大切さを感じました。

そんなとき、「島田市のローズアリーナ」のような施設があればいいと思いました。そこには、大きな体育館に加え、ダンスやヨガなどができるホールや室内プールもあります。施設の周りにはアスレチックもあり、子どもたちが楽しそうに遊んでいます。

菊川市にも学校の体育館とコミュニティセンターが一緒になった施設はありますが、「ローズアリーナ」のような総合的な施設が菊川球場の近くにならばいいと思います。菊川球場の近くには公園や散歩コースがあります。サッカーグラウンドもあります。そこに、総合運動施設があれば、子どもからお年寄りまでより多くの人が集まる場ができます。多くの人が集まることで交流が生まれ、人と人がつながる場が生まれます。

一つの場所に運動施設が集中することで、コミュニティバスの本数が増え、だれもが利用しやすくなります。カルチャースクールが開かれれば、ダンスやヨガ、卓球などを楽しむお年寄りの交流の場ができ、仲間とつながって生きていくことができます。日常的に体を動かすことは、健康に長生きができることにもつながると思います。

子どもたちにも良い影響があると思います。室内でテレビゲームや動画サイトに多くの時間を費やしている子どもが、外に出かけるきっかけになるかもしれません。オンラインで友達と交流することはできると思いますが、スポーツを通じて、体を動かす気持ちよさと、人と関わる楽しさを感じてほしいと思います。

「人と人がつながる菊川市」になることで、だれもが生きる楽しみをもてるまちになっていくと考えます。

にぎやかでみりよくな菊川

堀之内小学校 6 年月組 沖野 静香

私は、未来の菊川を、自然豊かで子どもがたくさんいる、にぎやかな市にしたいと考えています。そのために、まず菊川市の良いところをもっとみりよくなにしていこうと考えました。菊川市の良いところは、田んぼがたくさんあって、カエルやメダカなどがたくさんいるから、それを食べる鳥などもたくさんいるところです。そこで私は、田んぼや池があり、生き物がたくさんいて、アスレチックなどの遊具もある公園を作ることを提案します。

提案のきっかけは、遊具がたくさんある公園をもっとあったらいいなと思ったことです。私は、よく友達と菊川運動公園に行きます。広くて遊具もあるのですが、何回も遊ぶとあきてしまいます。遊具がたくさんある公園を作れば、あきずに楽しく遊べると思います。また、菊川には、ほかの市の人が遊びにくる大きな公園がありません。菊川市の田んぼが多くて自然豊かだという良さをいかした公園があれば、菊川市がもっと魅力的になると考えました。公園を作ることの利点は4つあります。一つ目は、菊川市の豊かな自然を守れるということです。公園にすれば、開発などで森林がけずられたり、田んぼがなくなったりすることを防ぐことができます。また、子どもが田んぼや池で遊ぶことで、自然の大切さを伝えることもできます。二つ目は、菊川市がにぎやかになることです。生き物好きの人が自然を楽しみにきたり、子どもが遊ぶためにきたりするからです。例えば、写真家が生き物の写真を撮りにきたり、研究者が標本をつくりにくるから、生き物好きがたくさん来ます。また、子どもがこん虫採集にくるから、遊具で遊びにくるから子どもが楽しく遊べる場所になります。三つ目は、少子高齢化の防止につながるということです。子どもが遊ぶ場所が増えると、子育てがしやすくなって、菊川市にいる子どもの数が増えるからです。四つ目は、高齢者が健康にすごせるということです。散歩コースができることによって、高齢者の方々が楽しく健康にすごすことができるからです。公園の人气が上がれば、菊川市の知名度が上がって、菊川市がもっとみりよくな市になると考えました。

このように、公園を作ることによって、自然を守れるし、菊川市がにぎやかになるし、少子高齢化を防ぐこともできるし、高齢者がすごしやすい市にすることもできて一石四鳥です。公園を作ることは、菊川市を活性化する方法として非常に有益だと思います。だから私は、菊川市に新しい公園を作ることを提案します。

子どもからお年寄りまで、楽に生活できるまちへ

牧之原小学校 6年1組 村松 陸

菊川市といえば、「お茶」、「きくのん」、「アエル」、「田んぼ」、「くずしゃり」などおいしいものや観光地、美しい自然が浮かびます。

僕はこのまちで生活をしていて、いくつかのことに気付きました。

1つ目は、買い物の大変さについてです。買い物に行くとき、住宅地からスーパーマーケットまでが遠く、車や時間が必要になります。また、菊川市以外のお店にも行くこともあります。

2つ目は、通りにくい道路についてです。歩いているとき、歩道が狭いところがあったり、一方通行で車が通れない箇所があったりします。その度に遠回りをしたり、道を引き返したりしています。

僕はこれらのことから、菊川市が、「子どもからお年寄りまで、楽に生活できるまち」になってほしいと考えます。例えば、歩道を広くすることはどうでしょうか。そうすることで、すれ違う車と歩行者が安全に安心して通行できるようになります。また、買い物に行きやすくなるような道を作るとはどうでしょうか。行きたいところに直接行くことができる専用の道路があると、渋滞を解消したり時間の短縮になったり、とても便利になると思います。スーパーマーケットなどへの買い物以外にも、緊急時に病院へ行きたいときや、学校や幼稚園に通学するときにも、安全に素早く行くことができるようになると思います。

菊川市の人口についても考えました。菊川市の人口はここ数年減少しています。しかし、65歳以上の高齢者の人数は今後増加していくと言われていています。「楽に生活できるまち」にしていく上で、高齢者のことを考えるのも大事だと思います。介護施設を増やすことも大切だと思いますが、高齢者とまちがつながることがさらに大切だと思います。例えば、市のホームページでハイキングの同好会を作って募集すると、健康に生活しようとする人が増えたり同じ趣味を持つ人同士のつながりができたりします。また、市役所に書類を提出しに行くことが遠くて大変なときはLINEやメールを使ったり、トラックなどを活用した訪問スーパーが広まったりすると、高齢者にとって楽しく、楽に生活できるようになるのではないかと考えました。こうしたことをやっていくと、高齢者だけではなく、多くの人にとって楽しく、住みやすいまちになっていくと思います。

僕は、菊川市のことが大好きです。これからも自然溢れる菊川市のよさを残しつつ、「子どもからお年寄りまですべての人が楽しく安全に過ごすことのできる菊川市」にしたいと思います。

菊川市を環境にいいまちへ

六郷小学校 6年2組 繁田 恵

私は、菊川市の東の方にある、六郷小学校に通っています。学校の環境は、管理作業員の方や、環境整備の行事での協力のおかげで、自然も観察でき、気持ちよく生活できるように整っています。しかし、菊川市全体として環境について考えたところ、どんな様子でしょうか。

六郷小学校の近くには菊川も通っているので、草むらや土手も身近です。他にも歩道を見てみると、すぐそこにごみが落ちているのを見かけます。そのごみをよく見てみると、特にたばこのごみが多いです。環境にも印象にも、よくないことばかりです。

私が学校に来るときの通学路でも、たばこのごみを見たことがあります。通学路に落ちているということは、小さい子どもも毎日見るということです。これでは、健康にも、環境にも、教育にも良くないのではないのでしょうか。

六郷小学校の6年生 58人にも、「菊川市で、ポイ捨てされているたばこのごみを見たことがありますか。」というアンケートをとってみました。その結果、「よく見かける」が25人、「たまに見かける」が33人、そしてなんと、「まったく見ない」という人は、1人もいないという結果になりました。この結果から、想像以上に多くの人が、日頃からごみを見かけているように感じました。

しかし、このように問題点を述べてきましたが、たばこのごみをポイ捨てしている大人が目の前にいたら、あなたは注意できますか。私はできないかもしれません。しかし、私はごみ問題を無くしたいと思っています。以上のようなことから、次の2つの提案をします。

まず一つ目の提案は、小学生からと分かってもらえるようなデザインの、ポイ捨て注意のポスターをはるということです。小学生からだと分からせることで、大人としてこんなことをしてはいけないという危機感を覚えてもらうことで、ポイ捨てをやめてくれるかもしれないと考えるからです。菊川市内の各小学校に、ポイ捨て禁止のポスターをぼしゅうするキャンペーンをすると良いと思います。

二つ目の提案は、菊川市の各小学校で、全員でごみ拾いを行うことを、授業に取り入れることです。小学生が行うことで、自分たちの住んでいる菊川市にはごみがどれだけ落ちているのか、ごみがあることで環境にどれだけ悪いのかを、身をもって知ることができます。また、そんな姿を見た大人達も、一緒に菊川市の環境について考えてくれるのではないのでしょうか。

このように、菊川市を環境にいいまちにできるように、私たち小学生から働きかけ、心がけていくことによって、他の市町村からも「きれいなまち」として認められる未来を願います。

一つの自然も無駄にしないまちへ

横地小学校6年1組 石川 音彩

はじめに

私たちは1学期、「考えようふるさとの未来 横地元気プロジェクト」というテーマのもと、菊川市や横地の未来について調べたり考えたりして提案書にまとめてきました。7月4日に、発表会を行い、友達の考えを聞くことができました。みんなは自分の経験から、人口、自然、暮らしやすさ、耕作放棄地、外国人・・・等、問題点に着目し、いろいろな視点から考え、工夫した意見を提案していました。ゴミを減らすために毎月ゴミ拾いキャンペーンを企画する、拾うだけでなく拾った物で何かを作る、菊川市が花でいっぱいになるように桜を植えたり花を育てたり緑を増やしたりする、菊川市のいいところを広めるためにPRしたり観光バスで回ったりする、大きな公園などをつくるなど、いい考えがたくさんありました。

そこで、私もみんなの代表として、菊川の未来に少しでも役に立てたらいいなと思い、提案します。

1. 提案のきっかけ

私が学校から帰ってくる時、ずっと放置されている田んぼや茶畑をよく見かけています。その時は「やだなあ……」としか思わなかったけど、菊川を良くするために何ができるか考えた時、やはりこのような土地を減らしたいし、土地を無駄にしたくないと思いました。そこに、新たな施設が欲しいという考えが出て来ました。私は荒地や耕作放棄地を使ってその施設を作れば土地を無駄にせず、活用できると思い提案しようと思いました。

1つ目の提案を考えているとき、周りに自然はあるけれど、自然を生かしたもの(場所)はないなと思いました。もしかしたら周りにある自然を使って人も増やせるのではと思いました。このことについても考えてみよう！と思ったので、2つのことについて提案します。

2. 提案

(1) 荒地や耕作放棄地を利用した楽しい施設 (こども館)

荒地や耕作放棄地を使って、大きな施設を作ったら有効利用できると思い、次のような施設を考えました。

- ・いつでも入れる
- ・高校三年生ぐらいまでなら入れる
- ・好きなことを思う存分楽しめる
- ・好きなことについて同じことを好きな人と語り合える
- ・悩んでいることを人に相談できたり話せたりする
- ・お弁当を持たせて子供を預けられる
- ・小さな子供向けのエリアもある

このような施設です。一緒にいる人が知らない人でも、好きなことが一緒だったらその

ことについて話せば仲良くなれると私は思いました。それに、お弁当を持たせて子どもを預けることもできるので、子どもをこの施設に預けて大人も息抜きができると思うし、小さな子ども向けのエリアもあるので預けられた子どもも思う存分遊べると思います。友達と一緒にこの施設で遊んだりもできます。でも、どのような形で実現させられるかはわからないし、正直、この施設を成立させるのは難しいと思います。ですが、何かこれをもとにいい案が出ればいいなと思い、提案します。

(2) 緑を探検！宝をゲットせよ！

今菊川にある緑を使って、暗号を解いたり緑を探検して宝を探したりするような場所があれば、人が集まったり緑と親しんだりすることができるかもしれないと思いました。画像を見てください。



例えばこのような、木のブランコやツリーハウス、緑に隠れた秘密基地などがあればすごく楽しいと思うし、暗号を解きながら宝を探すというのも楽しいと思います。ここでは楽しみながら自然と親しむことができます！自然と親しむことで自然を大切にすることができるかもしれません。市外からも人が集まることあるかもしれません。もしそうなったら一石二鳥です！

3. まとめ

今回は、自然を中心に提案をしてみました。私はこれから菊川市には、『自然』に優しいまちになって欲しいなと思います。地球に住んでいる私たちは、自然とうまく付き合っていくことが大切だと思います。自然と仲良く、守っていくために、私たちが自分にできることから取り組んでいく、これをやっていきたいなと思いました。みなさんも、目の前の落ちているゴミを拾うことから始めてほしいと思います。

菊川市を安心できるまちへ

六郷小学校 6年3組 清水 夏蓮

今年の総合学習で、私たちは、未来の菊川市について考えています。みんなで調べ学習をしたり、市役所の方に直接お話を聞いたりしました。菊川市のことを学習していく中で、すごく住みやすく良いまちだということを改めて実感しました。そうした中で私は、最近では菊川市がゲリラ豪雨や線状降水帯などが原因で、急に激しい大雨が降ることが多くなったことが気になりました。私の住んでいる地域では、近くに大きな川があります。川の様子を見ると、木の枝が川の方に飛び出し、そこにごみが引っかかっていることがあります。大雨で川の水が増えると、木の枝やごみが原因で、水の流れが悪くなり、氾濫して水が溢れてこないか心配です。未来の菊川市が「より安心して生活ができるまち」になって欲しいという考えをもちました。

以上のことから、私は次のように提案をします。

まずは、川の流れをよくするために、川に向かって飛び出している木を切ってもらう必要があると思います。市民の方が草を刈ってくれたり、川底の土や泥を取る取り組みをしてきているのは知っていますが、流れてきたものが引っかからずに、川の水の流れをスムーズにするために、余分な木を切ると良いと思います。そうすることで、川が氾濫するリスクを減らし安心して過ごすことができると思います。

次に、川のごみも減らすために、目立つ所に「ポイ捨て」に関する看板を立てたり、ポスターをはったりすると良いと思います。小学校や中学校にキャッチフレーズや俳句を募集したり、ポスターのイラストを考えてもらったりすれば良いと思います。ごみが減って川がきれいになるし、菊川の川を市の自慢にできるという効果もあると思います。

これが実現することで、自然災害を100パーセント防ぐことはできませんが、リスクを減らして住む人が気持ちよく安心して暮らせるまちにできると思います。また、自分も市のごみ拾いなどには積極的に参加するようにして、できることは行動に移していきたいと思っています。

きくのん有効活用プロジェクト

小笠北小学校 6年2組 澤入 さく

私は、この菊川市が大好きです。そして、菊川市のいいところをたくさん知っています。ですが、この菊川市にはまだまだ足りていない所があります。それは、菊川の知名度です。そこで私は菊川を有名な観光スポットにするために、3つの提案を考えました。

1つ目の提案は「きくのんをもっと使う」です。きくのんはゆるキャラグランプリで全国14位、県内1位と、とても優秀なゆるキャラです。知名度こそありませんが、この可愛さを利用してきくのんを有名にするには、きくのんのグッズを出せばいいと思います。今の時代はスイーツ映えが大切です。SNSで映える様な見た目のきくのんスイーツを出せば、きくのんのファンが県外にも増えるでしょう。

きくのんの知名度が上がったら次は2つ目の提案、「カフェづくり」です。動物にやさしい菊川という印象にするために動物保護施設付きのカフェを作ります。もちろんペットもOKです。菊川の子どもたちに命の尊さを教えるいい機会になるでしょう。それに菊川には空き地や空き家がたくさんあります。それらをおしゃれにリメイクしてカフェを作れば菊川の印象もグッと上がるはずです。さらに、1つ目の提案で作ったきくのんのグッズやスイーツを出してSNS映えを狙います。

3つ目の提案は「作ったスイーツを有名な人に食べてもらって宣伝をする。」です。有名な将棋士、藤井聡太さんが試合中に食べたスイーツがSNSで話題となり、今やそのスイーツは超有名で、売り切れてなかなか買えないほど人気になったそうです。きくのんのスイーツも誰か有名な人に甘味休憩として食べてもらい、SNSで話題にすれば必ず大ヒットするでしょう。

たくさんの人に菊川のよさを知ってもらうには影響力が必要です。SNSで菊川の良さを発信すれば影響力も十分あります。今、菊川の観光客を増やすためには、このような方法で菊川のよさを発揮するのが一番なのではないでしょうか。

自然いっぱい化市

堀之内小学校 6 年星組 水越 夏樹

僕は、菊川市を「自然いっぱい化市」にしたいです。

なぜなら僕は菊川市といえばお茶だと思うからです。菊川市のお茶はおいしく茶畑はすごくきれいだと思うから僕はいつまでもこの景色やこの味を残していきたいからです。

あと、菊川市にはたくさんの生き物がいます。でも生き物がきれいな人もいて、生き物からしても人がきれいな生き物もいます。そして年々技術が発展していつまでか技術が発展していくのは良い事ですが、もしかしたら生き物の住む場所がなくなってしまうかもしれません。なので、自然をいっぱいにするれば生き物が増えると思います。

しかも自然をいっぱいにする事は、SDGsにつながると思います。どうしてかと言うと、ゴミをなくせば自然がきれいになるからです。きれいになったら茶畑や川などの景色がよりきれいになります。なので、もしかしたら観光客が来るかもしれません。そうすれば菊川市がいつかは有名になると僕は思います。

さらに花を植えることによって見栄えも良くなるし、ミツバチのような花のミツを必要とする生き物もよろこぶと思います。

そして、僕はもう一つ「ホタルの住みついている市」にしたいです。

なぜかと言うと虫が苦手な人もいますが、ホタルはきれいな水のところしか住めないからです。ホタルを住みつけるためにはゴミを減らして水をきれいにしなければ住みついてくれないので、できるだけゴミを減らす必要があります。さらにゴミを減らせば川だけでなく海に流れ出るゴミが少なくなり魚や鳥にもそして地球にもやさしいので海がきれいになります。そうしたらホタルの住むことができる環境ができるかもしれません。そして、ホタルは夜に光るため、夜にホタルの光を見るためには暗くしないといけません、暗くすることによって一部節電にもなります。さらにホタルの光は神秘的でとてもきれいなので有名になるかもしれません。僕はお茶とホタルが合わさったら最高の観光地になると思います。

なので、とにかく僕は菊川市が自然いっぱいになって、ホタルの住みついている、人間にも、生き物にも、環境にも、地球にもやさしいすごく良い菊川市にしたいです。

菊川市を有名なまちに・・・

河城小学校 6年1組 高柳 葵

私は、菊川市を有名な町にしたいと思います。今から提案します。

1つ目は、体験施設を増やすことです。菊川市は、茶畑や、田んぼがたくさんあります。そういったもので、茶畑だったら茶摘み、田んぼだったら機械ではなく、人の手で田植えをしてもらい、秋になったら自分で収穫してもらい、菊川市の良さを知ってもらえればいいと思います。また、お茶を抹茶にする工程など、最初から最後まで見られる場所を作ったらいいと思います。

2つ目は、菊川市全体でスタンプラリーをすることです。スタンプラリーでは、田んぼの近くや茶畑の近く、また、市役所や図書館などの公共施設を使ってスタンプラリーをすれば、市役所の場所や図書館などの公共施設の場所を、スマートフォンを使って場所を調べると思うので、いろいろな場所を知ってもらうにはいいと思います。それに、インターネットで調べれば、公共施設だけでなく、お店も知ってもらえるので、いいきっかけだと思います。

3つ目は、木を使ったアートです。今は、田んぼアートがあります。だけど、季節が夏でないと、秋に収穫してしまうので、田んぼアートをまた書き直さなくてはなりません。だが、木を使えば、収穫することもないので、そのままにいます。木も一生そのままにいられるわけではないので、伸びてしまったら、次は違う形にすればいいから、木を使ったアートを作れば、みんなが楽しんでくれると思うからです。

4つ目は、菊川市のお茶や田んぼの良さを伝えるための劇をしたらいいと思います。そういった劇をすることで、お茶や田んぼの良さや魅力、これだから私たちは何をしたらいいかなど、いろいろなことがわかってもらえると思います。また、その劇をしたら、お茶の販売率が上がったり、お米の販売率が上がったりするかもしれません。だから、みんなもいいし、お茶やお米を販売した人の両方ともいいことがあると思います。

5つ目は、きくのんや茶ラリーマンをコップにすることです。まず、きくのんと茶ラリーマンの緑色の部分を透明にした絵をコップや湯のみにかいて、緑茶を入れたらきくのんと茶ラリーマンが完成するというものです。そうしたら、菊川で作ったお茶の売り上げが上がるのではないかと思います。また、麦茶やジュースを入れるのも楽しみの1つだと思います。また、きくのんたちだけでなく、いろいろなアニメの主人公のコップを販売するのもいいと思います。

6つ目は、5つ目で言ったコップや湯のみに絵を描く体験です。自分達で絵を描いたコップでお茶を飲んでもらうことで、お茶をたくさん飲んでもらえる気がします。小さな子どもや、大人でも楽しめる体験会だと思います。

これらの方法で、菊川市を知ってもらいたいです。それに、知ってもらうだけでなく、住みたい！や、菊川市はいいところなんだなあと思ってもらえたら嬉しいなと思っています。

魅力ある菊川市

加茂小学校 6年2組 松本 瑞穂

私は、菊川市に住んでいてたくさんいいところがあるなと思います。例えば、菊川・千榎棚田です。そこでは、日本の原風景や生き物を守る活動や、幼稚園児などが体験学習をすることもできます。実際私もこの棚田で幼稚園の時体験学習をして思い出に残っています。そして田んぼ繋がりでもう一ついいところがあります。それは、田んぼアートです。今年で15周年になる菊川の田んぼアートはさまざまなジャンルに挑戦してきました。その作品は、その年ごとに有名になったものを田んぼに描きます。作品の制作を市民が手伝うことによって市民の交流にもつながります。他にも、自然や緑やお茶、交通の利便性もあり住みやすいまちです。ですが、私はもっと魅力ある菊川市にできたらなと思っています。

そこで提案が2つあります。1つ目の提案は、菊川市の代表的な特産物をPRするイベントを開催して、新しい名物を誕生させることです。なぜそう思ったかという、授業で「菊川市で有名なものは？」と聞かれた時に私は1番にお茶と答えました。他にイチゴやトマト、メロンも有名ですが、言われないと分からず、思い出せませんでした。お茶は、菊川市だけでなく牧之原市や静岡県の特産物としても有名です。菊川市の特産物をPRするための方法を5つ考えました。1つ目は、さわやかなど菊川市発祥のものを発祥の地としてPRするイベントを開催し、盛り上げることです。2つ目は、メロンの生産を袋井市に負けないようにすることです。そのためにイチゴなどと一緒にスイーツの看板を作り、「菊川市では〇〇が有名!」などと見る人の関心を引き寄せる工夫をすればよいと思います。3つ目は、交差点などの標識に特産物のイラストをえがくことです。菊川市民にも菊川市の特産物をより多く知ってもらえることができると思います。4つ目は、きくのんのぬいぐるみやキーホルダーを作り、子供たちに配布して菊川市の魅力を伝えることです。5つ目は、農家の方々や子どもたちをお願いをして品種改良した野菜や果物を作ってもらえるようにし、菊川市だけのオリジナルの特産物を作ることです。私はこの中で、3つ目の提案である標識に特産物のイラストをえがくことが、この中ではより実現できるのではないかと思います。

2つ目の提案は、遺跡から出土した土器などの遺物をもっとPRして、菊川市に古くから人が生活していたことを広めるという提案です。なぜそう思ったかという、実際に私もあまり詳しく知らなかったということと、今は埋もれているけれども、昔はそこに人々

の営みがあったのだとわかって欲しいからです。この提案を実現させるための方法を2つ考えました。1つ目は、クイズなどを出すイベントを開催するということです。イベントを開催することで、菊川市の歴史に興味をもつ人が増えると思います。2つ目は、歴史の博物館のような施設を建てるか、菊川市埋蔵文化財センターなど、菊川市で発掘されたものを展示しているところをもっと広く公開し、歴史に触れる機会を増やすとよいと思います。菊川市の歴史を知ることによって市に誇りを持ち、さらに菊川市を好きになれるのではないのでしょうか。

私はこの菊川市がもっと魅力的になるように、そして楽しくて豊かで住みやすいまちになるように市民の1人として応援したいと思います。

特産品たくさんまち菊川

内田小学校6年2組 佐野 維吹

ぼくは、菊川市の特産品であふれる街にしたいです。それは、菊川市の特産品をたくさんの人に知ってもらえば菊川市の観光客が増え、さらに活気が出ると思ったからです。

菊川市の特産品を調べると、特産品がたくさんあることに気がきました。お茶だけではなく野菜、お酒などもあり、詳しく調べてみると、深蒸し茶、マスクメロン、トマト、小夜衣などがありました。こんなにたくさんの特産品があるので、それをPRすることが大切だと考えました。

まず、菊川市で特産品を広めるために行っている取組を調べました。1つ目は、菊川深蒸し茶を加工して販売する取組です。例えば、菊川茶を使った和と洋の良いところを融合した「和カロン」、見た目も香りも菊川茶の風味を存分に感じるような「深蒸し茶菊川ようかん」、色も味も楽しめる菊川茶葉を使った「菊川茶ポップコーン」などがありました。

2つ目は、市民に地産地消を推進するための取組です。市民の健康づくりの指針である「菊川すこやかプラン」の1つとして特産品を活用した地産地消の取組がありました。例えば、農産物である「ちゃ豆」試食販売のイベントや、市内生産者による食育・教育ファーム事業、小学校での野菜の種まきから収穫の一連の農作業体験、また市内の小学校の小学3年生を対象としたお茶の文化・歴史の継承のための学習の実施などです。これらの取組を知り、もっと他の地域の人たちにも菊川市の特産品について知って欲しいと考えました。そこでぼくは、菊川市のホームページ以外にも菊川市の特産品について載せる専用のホームページを作れば良いと考えました。菊川市に住んでいない人でも見やすいページを作れば、いろいろな地域に住む人に伝わるとし、インターネットを使った方が、拡散力があると思ったからです。また、広報誌にも積極的に掲載し、認知度を高めていければ良いと考えました。その中で、生産者の人にインタビューをしたり、子供にもわかりやすいような言葉を使ったりするなどの工夫も良いと思います。他にも、菊川市の特産品を消費する人が増えれば各企業が力を入れることもできると考えました。多くの人に消費してもらうために、期間限定のものを作り、特産品を作る人々や扱う会社などを支援して、事業の拡大を図るといふ工夫もよいのではないかと考えます。

菊川市以外の人にも知ってもらうためには菊川市民が地元の特産品について知っていることが大切だと思います。ぼくにできることは菊川市の特産品を消費することです。菊川市のよりよい未来のために、地産地消を心がける人が増えるといいと思います。

親しみのある菊川へ

小笠北小学校 6年1組 鈴木 佑菜

私は菊川市はとても歴史があり、素敵な地域だと思います。私が5年生の時、地域探訪をして小笠北小学区の歴史ある建物や場所を見て回りました。先日も、菊川埋蔵文化財センターで縄文時代から江戸時代までの土器を見させてもらいました。菊川市には歴史ある建物や、場所がたくさんあります。例えば、私の家の横にある井宮神社には中条右近太夫という徳川家にも足を運んでいたようなすごい方がまつられています。でも、今の若い人たちはあまり菊川の歴史ある建物に親しみがないと思います。菊川市総合計画の資料にも「歴史・文化遺産が継承され活かされているまちづくり」と書いてありました。私は若い人達が歴史や文化遺産を知って、未来の菊川に向けて親しみを持ってもらいたいと思いました。だから、菊川の歴史や文化遺産を知ってもらうにはどうしたらよいかについて4つの方法を考えました。

1つ目は菊川歴史パンフレットを作ることです。歴史ある建物や場所、遺跡などについての無料パンフレットを作ります。菊川市内の小学生などに学校で配布すれば、それに興味を持った人が菊川の歴史を知る機会になると思います。

2つ目は菊川歴史バスツアーをすることです。菊川の歴史に興味を持った人たちが菊川の歴史あるところを見て回ります。バスツアーだったら小さい子も興味を持ってくれるので、若い世代の子にも菊川の歴史が伝わります。

3つ目は菊川歴史スタンプラリーです。歴史ある建物や場所にスタンプを置いて、小学生中心にスタンプラリーカードを配れば、興味を持ち菊川の歴史について知ることができます。スタンプラリーは、次は何のスタンプかな、というワクワク感も味わうことができます。

4つ目は菊川歴史ポスターです。菊川市以外のまちはどんな歴史への取り組みをしているのかを調べました。すると歴史ポスターを作っているというまちがありました。菊川市の歴史で特にこれは知ってほしい、というものをポスターにするのです。駅などにはったら他のまちから来た人も観られるので興味を持ってもらえると思います。

私は、菊川市にあるたくさんの歴史がもっともっといろいろな人達に伝わってほしいです。これらの案が実現して、若い世代の人に歴史が伝わっていけば、歴史・文化遺産が継承されて活かされているまちづくりができます。そして、この菊川市の全員が菊川に親しみを持ってくれたらと思っています。

住み続けたい未来の菊川

堀之内小学校 6年雪組 太田 波那

十年後、私は21歳になります。大人になった私は、どんな菊川市になっていてほしいか想像してみました。

明るく、そしてだれもが住みやすく、また住み続けたいと思える菊川市でいてほしいと考えました。

十年後は、今よりさらに少子高齢化が進みます。支えられる人は増え、支える人が少なくなると考えます。そこで、支えられる側も支える側も心地よく生活できるようなまちづくりについて具体的に考えてみました。

まず、明るいまちづくりのために、「毎日あいさつプロジェクト」を提案します。人と人が関わる機会が減っているので、どんな年齢の人でもあいさつを交わし、お互いに知り合うことで、交流を増やしたいと思います。どの地区でもプロジェクトを進め、地区同士も交流の場を作れるといいです。

また、きれいなまちを保つためにも、今まで以上にまち全体をきれいにしていかなければなりません。登校中、通学路でいろいろなごみを見かけます。そのたびに、「どうしたらいいのか。」と考えていました。

現在の菊川市は、ごみの排出量が1人あたり1日656グラムです。これは県内第3位で、少ない方だというデータがあります。しかし、1日で考えると、もう少し減らせるのではないのでしょうか。それには、一人ひとりの行動が必要不可欠です。そこで、「菊川市もっと4Rプロジェクト」を提案します。4Rについてまだ知らない人も多いと思うので、小中学生が中心となって、広報活動をしながら、自然環境をよくする運動を広めていき、市全体で取り組みを強くしていきたいです。

最後に、やはり「お茶」です。私は菊川のお茶が大好きです。しかし、お茶を飲む機会や人が減少しているとよく耳にします。このままでは、将来もっと減少してしまうのではと大きな不安があります。菊川茶の良さと伝統を守っていくために、「人」「地域」という視点で考えてみました。

静岡県全体で考えてみると、様々な特産品が浮かびます。農産物、水産物など、自然を生かしたものであふれています。そこで、県内の市町と協力して、菊川茶が活かされるような食事のメニューを開発していきたいです。いろいろな市町の人に来ていただき、お茶と一緒に楽しんでもらえるようなイベントを開催することで、市内の人だけでなく、広い地域の人にも足を運んでもらえるのではないのでしょうか。このイベントには、支える側の人だけでなく、これまで菊川茶の伝統を守ってきてくださった高齢の方々にも加わってもらい、広い世代の人が参加できることが一番の喜びです。

このように、あいさつ、自然環境、人と地域の関りを大切にしながら、未来の菊川市が今よりもっと明るく、住みやすいまちであってほしいと強く願っています。

菊川市を有名なまちにしよう！

六郷小学校 6年1組 松島 漣

突然ですが、質問です。菊川市は有名だと思いますか。このまちで生まれたぼくにとって、11年の年月を過ごした菊川市は、自然の環境と産業の環境がとてもよいまちです。しかし残念ながら、菊川の名はあまり知られていないのかなと思います。あるアンケートでは菊川市は県内35市町村中、20位という結果だったそうです。だからぼくは、菊川が有名になって、特産物もたくさん売れる、菊川をすばらしいまちにしたいと思い、いくつか提案をしたいと思います。

1つ目はみんながいろいろな情報を得ることができるようにすることです。そのためには、マスコミで報道されたり、ネットや口コミで「菊川っていいところだよな。」と言われたりすることが、菊川と言えば、「〇〇だよな。」となるシンボルのようなものを創りたいです。その具体例が、テーマパークです。菊川の特産品をモチーフにした老若男女問わず楽しめ、ついでに菊川の特産品も買えるなどといったテーマパークを建設したらと考えています。

土地の問題ですが、ある程度広い、駅から徒歩15分ほどの土地があればいいと思います。理想としては、沼津にある深海水族館です。そこは、面積が1000平方メートル、つまり約300坪しかありませんが、とても充実していて、全国からお客さんが殺到しています。その数は年間300万人で、日本の人口の約3パーセントになります。このように、広さではなく楽しさがあれば、菊川市まで来てもらえると思います。

次に金銭面ですが、例えば入場料をひとり2千円とし、お客さんが年間300万人訪れたらどうでしょう。年間60億の売上ができます。必要経費や電気水道代を引いても、かなりのもうけができます。これで菊川市が豊かになります。

さらに資金も問題ですが、資金は株式形式で市民も参加する形にしたらどうでしょう。例えば所得の1パーセントの出資をお願いします。そして高所得者からは、応能性を考えもう少し頂きたいです。それを1年ほど続け、必要経費がたまれば、建設し、成功したら、資金を払ってくれた割合で山分けします。そうすれば市民も大喜びです。利益は農家や生活困窮者の応援、道路整備や防犯など、みんなの幸せのために使って欲しいです。

また菊川は人口が減少しています。菊川が有名になるということは、少子高齢化対策にも直接ではないですがつながると思います。だから、菊川の未来のためにも、菊川が有名になる、発展は欠かせないのです。ぼくは、のどかな田園風景と都市という二面性をもつ菊川にしていきたいと思います。